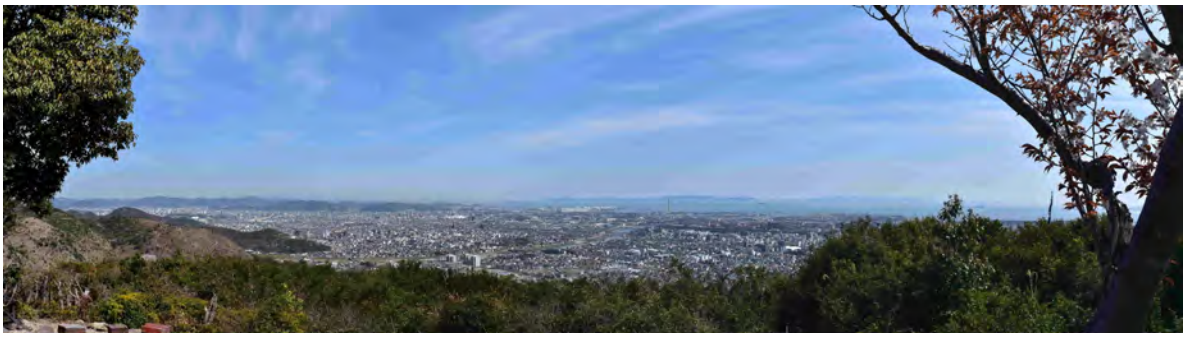
表 11.11-6(34)　主要な眺望景観の状況(32 京見山)

主要な眺望点	32 京見山
主要な眺望点の状況	京見山山頂付近の休憩スペースより、南方向を眺望した景観です。
景観資源の状況	景観資源として、ほうらく島(上島)を眺望できます。

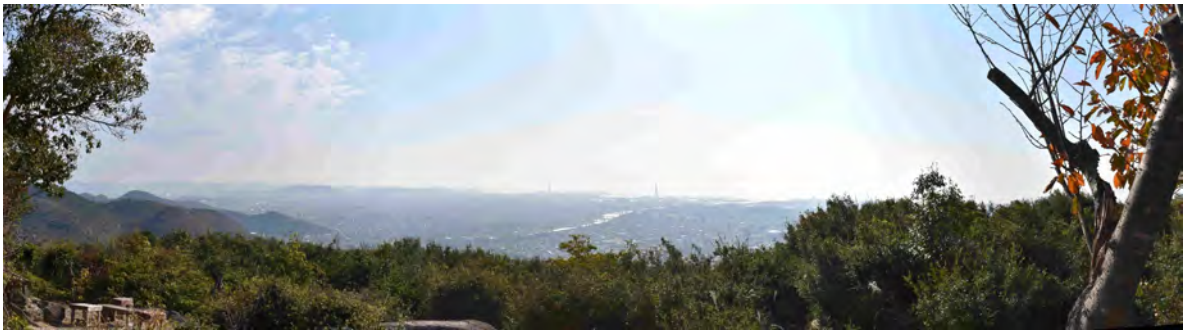
眺望景観の状況



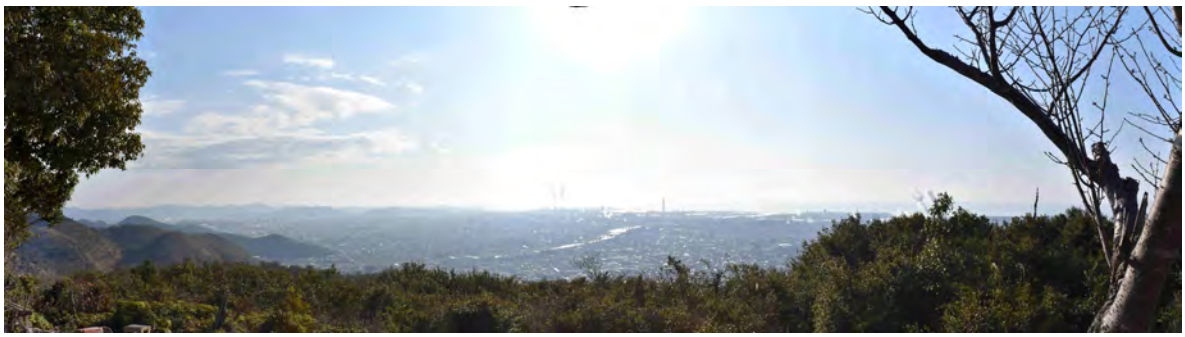
春季(令和 4 年 4 月 5 日撮影)



夏季(令和 4 年 8 月 9 日撮影)



秋季(令和 4 年 11 月 11 日撮影)



冬季(令和 4 年 2 月 2 日撮影)

2) 予測

(1) 予測の手法

① 予測の基本的な手法

i) 主要な眺望点及び景観資源の改変

予測は、主要な眺望点及び景観資源と都市計画対象道路を重ね合わせ、図上解析することにより、改変の位置、程度を把握しました。

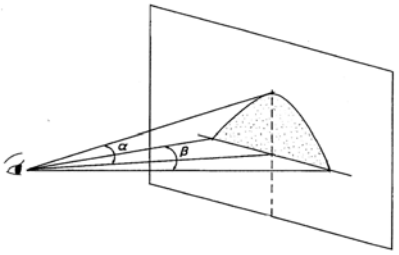
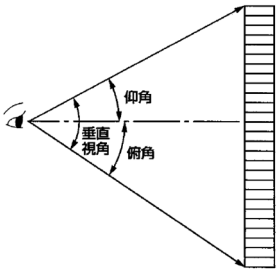
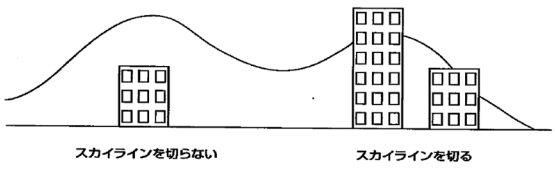
ii) 主要な眺望景観の変化

予測は、フォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法により、眺望景観の変化の程度を把握することにより行いました。

また、都市計画対象道路の目立ちやすさを示す物理的指標を用い、眺望景観の変化の程度が人間に与える影響(圧迫感、目立ちやすさ等)を整理しました。

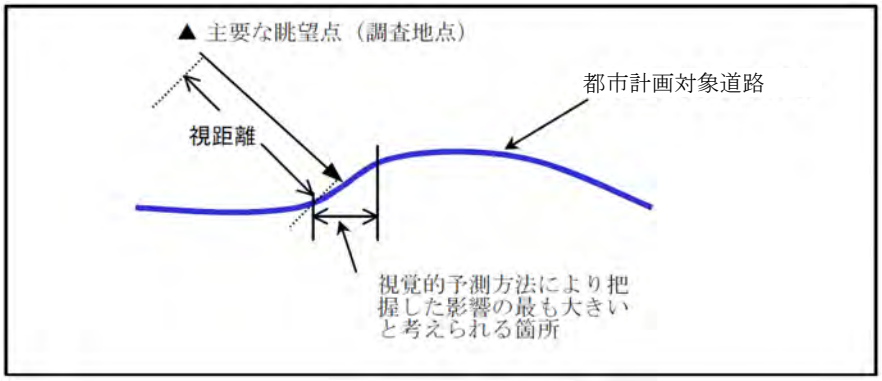
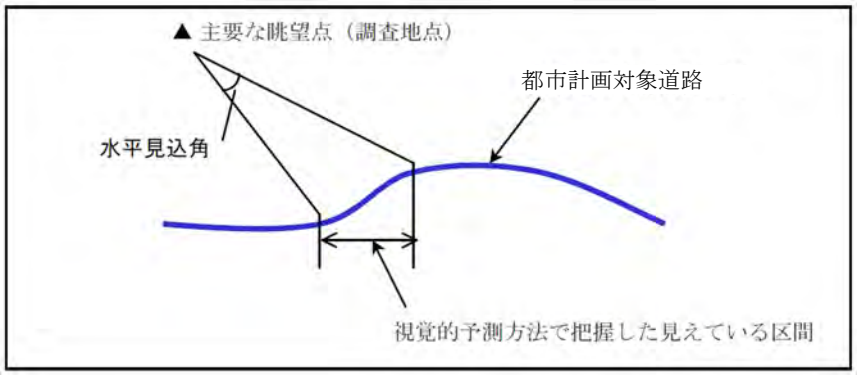
視覚に関する物理的指標は表 11.11-7 に、物理的指標の解析方法は表 11.11-8 に示すとおりです。

表 11.11-7　視覚に関する物理的指標

<table>
<tr><th>指標</th><th colspan="2">内容</th></tr>
<tr><td>視距離</td><td>視距離によって施設などの認知を規定する要因(テクスチャー、色彩、形態等)が変化するので、保全水準の達成の程度の判定及び保全対策の立案への指標としても役立つ。</td><td>景観の視距離を近景・中景・遠景と区分すると、この3区分は対象によってその絶対的距離は異なってくるが、概ね以下のような感覚でとらえられる。
○近景…対象の要素やディテールが目につきやすい領域(500m 程度以内)
○中景…対象全体の形態がとらえやすく、対象が景観の主体となる領域(500m～3km 程度)
○遠景…対象が景観のごく一部となる領域(3km 程度以遠)</td></tr>
<tr><td>水平見込角</td><td>視点からの対象の見えの大きさを表す指標で、視点から対象を見込む水平見込角を指標値として用いる。</td><td>水平見込角が、10° を超えると対象構造物は目立つようになる。

α ：垂直視角
β ：水平見込角</td></tr>
<tr><td>仰角</td><td>仰角とは、対象物の上端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。構造物の見えの面積とほぼ比例関係にある仰角を圧迫感の指標として用いる。仰角が大きいと圧迫感を感じる。</td><td rowspan="2">仰角は 18° になると圧迫感が感じられ始め、30° では対象物が全視野を占め、圧迫感が残る(メルテンスの法則)。また、俯角 10° 付近は俯瞰景観における中心領域であるといわれており、都市計画対象道路事業実施区域がその周辺に位置する場合は目につきやすくなる。

</td></tr>
<tr><td>俯角</td><td>対象物の下端と視点を結ぶ線と水平線のなす角。俯瞰景観においては、俯角が目につき易さの重要な指標となる。</td></tr>
<tr><td>スカイライン切断の有無</td><td>スカイラインとは山が空を背景として描く輪郭線のこと。</td><td>人工物の出現により、スカイラインの連続性が切断された場合には、景観上の支障が大きくなるとされている。

</td></tr>
</table>

出典：「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(平成 25 年 3 月、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)

表 11.11-8　物理的指標の解析方法

指標名	解析方法
視距離	①フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。 ②地形図に①で把握した箇所を示す。 ③主要な眺望点(調査地点)と②で示した箇所の距離を測定する。 
水平見込角	①フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、都市計画対象道路の見えている区間を測定する。 ②地形図に①で測定した区間を示す。 ③②で地形図上に示した区間の水平見込角を測定する。 
仰角・俯角	①フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、影響の最も大きいと考えられる箇所を把握する。 ②地形図に①で把握した区間を示す。 ③主要な眺望点(調査地点)と②で示した箇所の標高データを地形図上で測定する。 ④③で測定した標高データと視距離より仰角(俯角)を算出する。
スカイライン切断の有無	フォトモンタージュ等の視覚的予測方法を用いて、スカイラインの切断の有無を把握する。

出典：「道路環境影響評価の技術手法(平成 24 年度版)」(平成 25 年 3 月、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所)

② 予測地域

i) 主要な眺望点及び景観資源の改変

予測地域は、調査地域のうち、主要な眺望点及び景観資源の改変が生じると考えられる地域として、都市計画対象道路事業実施区域と主要な眺望点及び景観資源が重なる地域としました。

ii) 主要な眺望景観の変化

予測地域は、調査地域のうち、主要な眺望景観の変化が生じると考えられる地域としました。なお、予測地点は、調査地点と同様としました。

③ 予測対象時期等

予測対象時期は、都市計画対象道路事業の完成時において、主要な眺望点の利用状況、景観資源の自然特性を踏まえ、主要な景観資源及び主要な眺望景観の影響を明らかにする上で必要な時期としました。

予測対象時期は、表 11.11-9 に示すとおりです。

表 11.11-9　予測対象時期

予測地点番号	主要な眺望点	予測対象時期(季節)
1	天満大池・天満大池公園	春季
2	いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)	夏季
3	いなみ野ため池ミュージアム(和田新池)	冬季
4	兵庫県立考古博物館展望塔	秋季
5	山之上遺跡	夏季
6	いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)	夏季
7	多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港	冬季
8	別府住吉神社・手枕の松	夏季
9	加古川河口	秋季
10	加古川下流・池尻橋－相生橋(相生橋)	冬季
11	高御位山(播磨富士)	冬季
12	加古川右岸自転車道	冬季
13	高砂海浜公園・向島公園	冬季
14	高砂大橋	秋季
15	高砂神社	秋季
16	十輪寺	春季
17	観濤処	冬季
18	石の宝殿(生石神社とその裏山)	冬季
19	鹿島川	春季
20	日笠山	春季
21	ひょうたん池コウノトリ夢公園	冬季
22	大塩天満宮	夏季
23	坂の山頂上	冬季
24	木場ヨットハーバー	春季
25	灘浜大橋	冬季
26	松原八幡神社	冬季
27	白浜西山公園	秋季
28	麻生山(小富士山)	夏季
29	川尻緑地	夏季
30	浜の宮天満宮	春季
31	夢前川の桜並木	春季
32	京見山	冬季

注) 予測地点番号は図 11.11-1 の番号に対応しています。

(2) 予測結果

① 主要な眺望点及び景観資源の改変の程度

主要な眺望点のうち、「坂の山頂上」については、その一部を都市計画対象道路が切土工で通過し、主要な眺望点が改変を受けると予測されます。「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」、「いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)」、「多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港」、「加古川河口」、「加古川右岸自転車道」及び「高砂海浜公園・向島公園」の 6 箇所については、その一部を都市計画対象道路が高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。

また、景観資源のうち、「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」、「いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)」、「多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港」、「加古川河口」、「高砂地区景観形成地区」、「高砂海浜公園・向島公園」及び「市川」の 7 箇所については、その一部を都市計画対象道路が高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。

主要な眺望点及び景観資源の改変の程度は表 11.11-10 及び表 11.11-11 に、都市計画対象道路事業実施区域に存在する主要な眺望点及び景観資源の位置は図 11.11-2 に示すとおりです。

表 11.11-10　主要な眺望点の改変の程度

番号	主要な眺望点	予測結果
1	天満大池・天満大池公園	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、主要な眺望点を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。
2	いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)	都市計画対象道路は、主要な眺望点(いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池))の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
3	いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)	都市計画対象道路は、主要な眺望点(いなみ野ため池ミュージアム(潰目池))の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
4	多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港	都市計画対象道路は、主要な眺望点(多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
5	別府住吉神社・手枕の松	都市計画対象道路は、主要な眺望点(別府住吉神社・手枕の松)の直近を高架構造で通過しますが、主要な眺望点の改変は生じないと予測されます。
6	加古川河口	都市計画対象道路は、主要な眺望点(加古川河口)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
7	加古川右岸自転車道	都市計画対象道路は、主要な眺望点(加古川右岸自転車道)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
8	高砂海浜公園・向島公園	都市計画対象道路は、主要な眺望点(高砂海浜公園・向島公園)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
9	十輪寺	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、主要な眺望点を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。
10	坂の山頂上	都市計画対象道路は、主要な眺望点(坂の山頂上)の一部を切土工で通過し、主要な眺望点が改変を受けると予測されます。
11	浜の宮天満宮	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、主要な眺望点を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。

注) 番号は図 11.11-2 の番号に対応しています。

表 11.11-11　景観資源の改変の程度

番号	景観資源	予測結果
①	天満大池・天満大池公園	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、景観資源を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。
②	いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)	都市計画対象道路は、景観資源(いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池))の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
③	いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)	都市計画対象道路は、景観資源(いなみ野ため池ミュージアム(潰目池))の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
④	多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港	都市計画対象道路は、景観資源(多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
⑤	別府住吉神社・手枕の松	都市計画対象道路は、景観資源(別府住吉神社・手枕の松)の直近を高架構造で通過しますが、景観資源の改変は生じないと予測されます。
⑥	加古川河口	都市計画対象道路は、景観資源(加古川河口)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
⑦	高砂地区景観形成地区	都市計画対象道路は、景観資源(高砂地区景観形成地区)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
⑧	高砂海浜公園・向島公園	都市計画対象道路は、景観資源(高砂海浜公園・向島公園)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
⑨	十輪寺	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、景観資源を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。
⑩	市川	都市計画対象道路は、景観資源(市川)の一部を高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。
⑪	浜の宮天満宮	都市計画対象道路は、道路の計画段階において、景観資源を回避する計画としているため、改変は生じないと予測されます。

注）番号は図 11.11-2 の番号に対応しています。

凡例	
記号	種別
	主要な眺望点
	景観資源
	都市計画対象道路事業実施区域

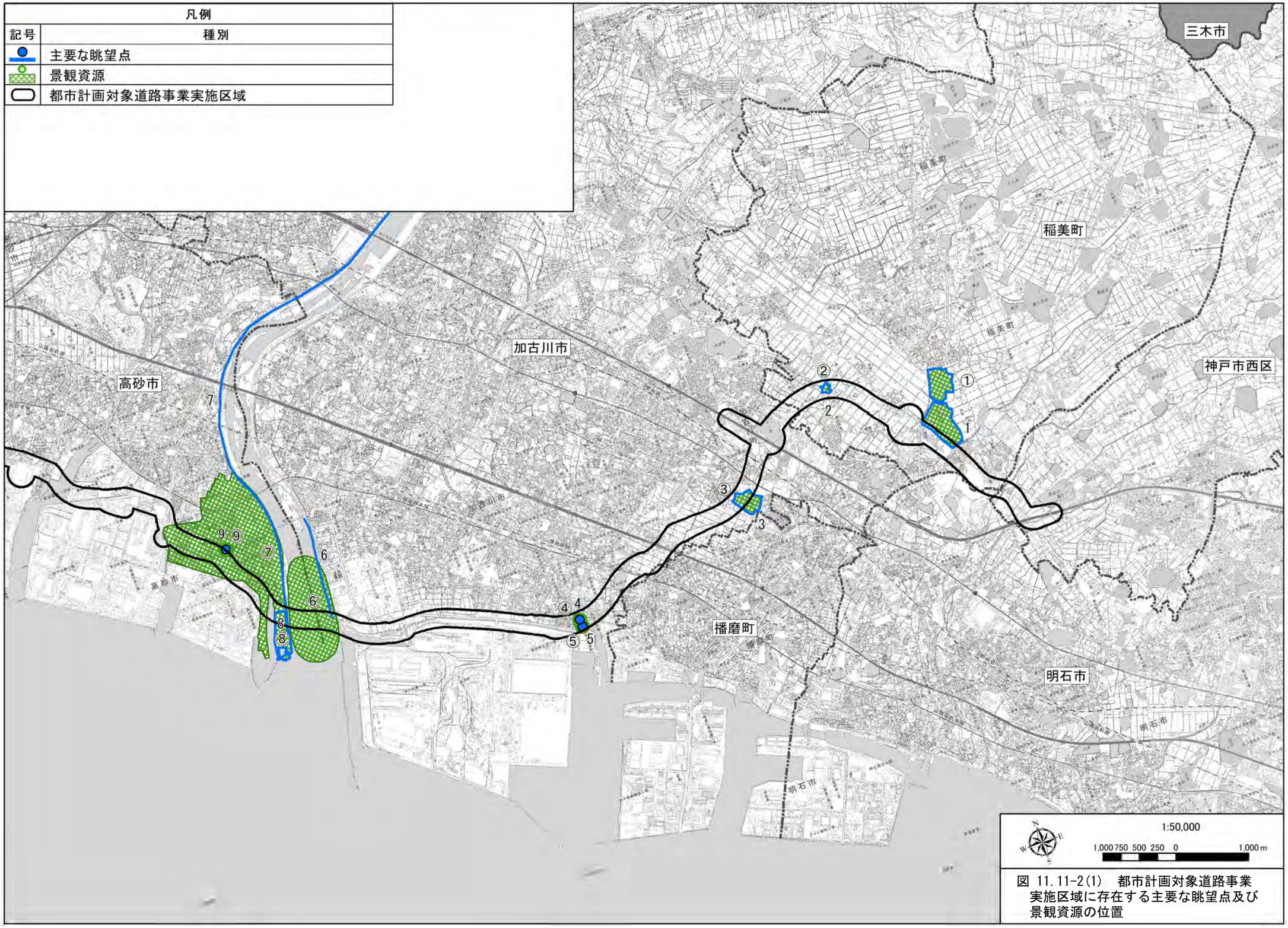


図 11.11-2(1)　都市計画対象道路事業実施区域に存在する主要な眺望点及び景観資源の位置

凡例	
記号	種別
	主要な眺望点
	景観資源
	都市計画対象道路事業実施区域



図 11.11-2(2)　都市計画対象道路事業実施区域に存在する主要な眺望点及び景観資源の位置

② 主要な眺望景観の変化の程度

「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」等、13 箇所の主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。

主要な眺望景観の変化の程度は、表 11.11-12 に示すとおりです。

表 11.11-12(1)　主要な眺望景観の変化の程度(1 天満大池・天満大池公園(眺望点 1))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 44° ・仰角：約 2° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 天満大池公園内の遊歩道脇より、西方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である天満大池・天満大池公園を正面に眺望することができ、河原山池の上部を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 44° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、背後の建物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。 また、都市計画対象道路により新たに直線的なスカイラインが形成されるものの、主として建物群により形成されているスカイラインに対し、大きな切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(2)　主要な眺望景観の変化の程度(1 天満大池・天満大池公園(眺望点 2))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 55° ・仰角：約 3° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 天満大池公園内の遊歩道脇より、西方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である天満大池・天満大池公園を正面に眺望することができ、河原山池の上部を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 3° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 55° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として建物群により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(3)　主要な眺望景観の変化の程度(2 いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.03km ・水平見込角：約 48° ・仰角：約 17° ・俯角：約 2° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)の休憩スペースより、南西方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源であるいなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)を正面に眺望することができ、梶ヶ池の上部を通過する都市計画対象道路を直近に視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.03km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 48° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、仰角は約 17° とやや圧迫感を感じやすい角度になっています。また、都市計画対象道路により、建物や樹冠で形成されているスカイラインを切断します。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(4)　主要な眺望景観の変化の程度(3 いなみ野ため池ミュージアム(和田新池))

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 0.6km
・水平見込角：約 46°
・仰角：約 2°
・スカイラインの切断:なし

[予測結果]
いなみ野ため池ミュージアム(和田新池)の遊歩道脇より、東方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるいなみ野ため池ミュージアム(和田新池)を正面に眺望することができ、和田新池の奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.6km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 46° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、背後の建物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。
また、都市計画対象道路により新たに直線的なスカイラインが形成されるものの、主として建物群により形成されているスカイラインに対し、大きな切断は生じません。
これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td></tr>
<tr><td>改変される位置</td></tr>
</table>

表 11.11-12(5)　主要な眺望景観の変化の程度(4 兵庫県立考古博物館展望塔)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.6km ・水平見込角：約 47° ・俯角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 兵庫県立考古博物館の展望塔より、北西方向を眺望した景観(秋季)です。景観資源である大中遺跡、山之上遺跡、いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)を眺望することができ、通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.6km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 47° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、樹林や背後の建物の一部に溶け込んでおり、俯角は約 1° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断も生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(6)　主要な眺望景観の変化の程度(5 山之上遺跡)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 49° ・仰角：約 2° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 山之上遺跡の上部に立地する住吉神社参道より、北方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源である山之上遺跡を眺望することができ、通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 49° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、樹木により一部遮蔽されており、仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。また、都市計画対象道路は樹木の間を通過するため、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(7)　主要な眺望景観の変化の程度(6 いなみ野ため池ミュージアム(潰目池))

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 0.2km
・水平見込角：約 57°
・仰角：約 2°
・俯角：約 1°
・スカイラインの切断:あり

[予測結果]
いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)の遊歩道より、北方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源であるいなみ野ため池ミュージアム(潰目池)を正面に眺望することができ、潰目池の上部を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.2km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 57° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として建物や樹木により形成されているスカイラインも切断されます。
これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td><td></td></tr>
<tr><td>改変される位置</td><td></td></tr>
</table>

表 11.11-12(8)　主要な眺望景観の変化の程度(7 多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.03km ・水平見込角：約 55° ・仰角：約 24° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 別府港の船着き場より、南東方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港を眺望することができ、直近を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.03km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 55° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、仰角は約 24° と圧迫感を感じる角度となっています。また、都市計画対象道路により主として建物群により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(9)　主要な眺望景観の変化の程度(8 別府住吉神社・手枕の松)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.05km ・水平見込角：約 34° ・仰角：約 16° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 別府住吉神社内より、北東方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源である別府住吉神社・手枕の松を間近に眺望することができ、神社奥の道路側を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.05km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 34°と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、背後の樹林や建物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 16°と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(10)　主要な眺望景観の変化の程度(9 加古川河口)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.5km ・水平見込角：約 57° ・仰角：約 1° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 加古川河口に近い歩道より、南西方向を眺望した景観(秋季)です。景観資源である加古川河口、高砂地区景観形成地区、高砂海浜公園・向島公園を正面に眺望することができ、正面の加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.5km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 1° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 57° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として川面や樹林により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(11)　主要な眺望景観の変化の程度(10 加古川下流・池尻橋－相生橋(相生橋))

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 1.4km
・水平見込角：約 50°
・仰角：約 1°
・スカイラインの切断:あり

[予測結果]
相生橋の左岸側の欄干近傍より、南方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である加古川河口、高砂地区景観形成地区、高砂海浜公園・向島公園を眺望することができ、加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 1.4km で、中景域(3km 以内)に区分されます。仰角は約 1° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 50° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として川面や樹林により形成されているスカイラインも切断されます。
これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td><td></td></tr>
<tr><td>改変される位置</td><td></td></tr>
</table>

表 11.11-12(12)　主要な眺望景観の変化の程度(11 高御位山(播磨富士))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 5.2km ・水平見込角：約 106° ・俯角：約 3° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 高御位山(播磨富士)山頂の休憩スペース付近より、南西方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるいなみ野ため池ミュージアム(阿弥陀新池)、ほうらく島(上島)を眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 5.2km で、遠景域(3km 以遠)に区分されます。水平見込角は約 106° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込み目立ちにくくなっています。また、俯角は約 3° と俯瞰景観の中心から外れており、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(13)　主要な眺望景観の変化の程度(12 加古川右岸自転車道(眺望点 1))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 57° ・仰角：約 3° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 加古川右岸自転車道の途中より、南方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である加古川河口、高砂地区景観形成地区、高砂海浜公園・向島公園を眺望することができ、加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 3° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 57° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として川面や樹林により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(14)　主要な眺望景観の変化の程度(12 加古川右岸自転車道(眺望点 2))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 57° ・仰角：約 5° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 加古川右岸自転車道の開始地点付近より、北方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である加古川河口を眺望することができ、加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 5° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 57° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として山地により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(15)　主要な眺望景観の変化の程度(13 高砂海浜公園・向島公園)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.4km ・水平見込角：約 50° ・仰角：約 3° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 高砂海浜公園の歩道部分より、北方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である加古川河口、高砂地区景観形成地区、高砂海浜公園・向島公園を眺望することができ、加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.4km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 3° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 50° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として山地により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(16)　主要な眺望景観の変化の程度(14 高砂大橋)

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 0.2km
・水平見込角：約 57°
・仰角：約 6°
・俯角：約 1°
・スカイラインの切断:あり

[予測結果]
高砂大橋の歩道より、南方向を眺望した景観(秋季)です。景観資源である加古川河口、高砂地区景観形成地区、高砂海浜公園・向島公園を眺望することができ、加古川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.2km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 6° と圧迫感を感じない角度に抑えられており、俯角は約 1° と俯瞰景観の中心から外れています。一方、水平見込角は約 57° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路によりスカイラインを切断します。
これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td><td></td></tr>
<tr><td>改変される位置</td><td></td></tr>
</table>

表 11.11-12(17)　主要な眺望景観の変化の程度(15 高砂神社)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.3km ・水平見込角：約 5° ・仰角：約 4° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 高砂神社の門の前より、南方向を眺望した景観(秋季)です。景観資源である高砂地区景観形成地区、高砂神社を眺望することができ、参道奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.3km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 5°と対象構造物が目立ちにくい値になっており、仰角は約 4°と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(18)　主要な眺望景観の変化の程度(16 十輪寺)

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 0.4km
・水平見込角：約 5°
・仰角：約 3°
・スカイラインの切断:なし

[予測結果]
十輪寺の門の前より、南方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である高砂地区景観形成地区、十輪寺を眺望することができ、車道奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.4km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 5°と対象構造物が目立ちにくい値になっており、仰角は約 3°と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。
これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td><td></td></tr>
<tr><td>改変される位置</td><td></td></tr>
</table>

表 11.11-12(19)　主要な眺望景観の変化の程度(17 観濤処)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 2.2km ・水平見込角：約 55° ・俯角：約 3° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 「観濤処」と書かれた巨石の上部付近より、南西方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である日笠山、ほうらく島(上島)を眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 2.2km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 55° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約3° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(20)　主要な眺望景観の変化の程度(18 石の宝殿(生石神社とその裏山))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 2.5km ・水平見込角：約 79° ・俯角：約 2° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 石の宝殿(生石神社)の裏山が山上公園として整備されており、その休憩スペース付近より、南西方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるほうらく島(上島)、加古川河口を正面に眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 2.5km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約79° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約 2° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(21)　主要な眺望景観の変化の程度(19 鹿島川)

<table>
<tr><th>撮影時期</th><th>写真</th><th>予測結果</th></tr>
<tr><td>現況</td><td></td><td rowspan="3">[物理的指標による解析結果]
・視距離：約 0.5km
・水平見込角：約 3°
・仰角：約 1°
・スカイラインの切断:なし

[予測結果]
鹿島川沿いの遊歩道より、南西方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である鹿島川を眺望することができ、視野範囲の奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。
物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.5km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 3°と対象構造物が目立ちにくい値になっており、仰角は約 1°と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。
これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。</td></tr>
<tr><td>将来</td><td></td></tr>
<tr><td>改変される位置</td><td></td></tr>
</table>

表 11.11-12(22)　主要な眺望景観の変化の程度(20 日笠山)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.9km ・水平見込角：約 59° ・俯角：約 3° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 日笠山山頂部の公園より、南方向を眺望した景観(春季)です。景観資源であるほうらく島(上島)を正面に眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.9km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 59° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約 3° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(23)　主要な眺望景観の変化の程度(21 ひょうたん池コウノトリ夢公園)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.2km ・水平見込角：約 55° ・仰角：約 6° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] ひょうたん池脇にあるひょうたん池コウノトリ夢公園の休憩スペース付近より、西方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるひょうたん池を正面に眺望することができ、近傍の丘陵地を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.2km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 6° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 55° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として山林により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(24)　主要な眺望景観の変化の程度(22 大塩天満宮)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.7km ・水平見込角：約 5° ・仰角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 大塩天満宮入口付近より、南方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源である大塩天満宮を眺望することができ、歩道奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.7km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 5°と対象構造物が目立ちにくい値になっており、仰角は約 1°と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(25)　主要な眺望景観の変化の程度(23 坂の山頂上)

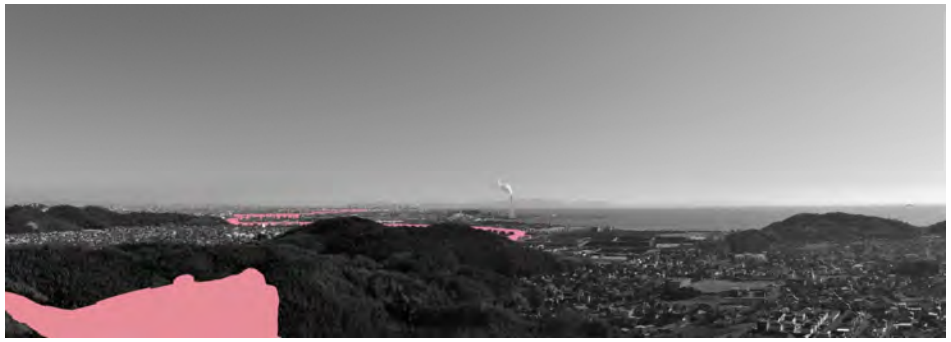
撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.4km ・水平見込角：約 33° ・俯角：約 0～17° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 坂の山頂上より、南東方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるほうらく島(上島)を眺望することができ、山際及び遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.4km で、近景域(500m 以内)に区分されます。水平見込角は約 33° と対象構造物が目立ちやすい値になっています。また、俯角は約 0～17° と俯瞰景観における中心領域といわれる 10° 付近を含みます。なお、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(26)　主要な眺望景観の変化の程度(24 木場ヨットハーバー)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 1.7km ・水平見込角：約 23° ・仰角：約 2° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 木場ヨットハーバー脇の堤防付近より、西方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である八家川を眺望することができ、視野範囲の奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 1.7km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 23° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、丘陵地や海岸構造物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(27)　主要な眺望景観の変化の程度(25 灘浜大橋)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 1.4km ・水平見込角：約 55° ・仰角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 灘浜大橋の歩道上より、北東方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である小赤壁(小赤壁公園)を眺望することができ、沿岸の陸地上を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 1.4km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 55° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、背後の建物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 1° と圧迫感を感じない角度に抑えられているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(28)　主要な眺望景観の変化の程度(26 松原八幡神社)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.7km ・水平見込角：約 1° ・仰角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 松原八幡神社脇の敷地より、南方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源である松原八幡神社を眺望することができ、車道奥を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.7km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 1°と対象構造物が目立ちにくい値になっており、仰角は約 1°と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(29)　主要な眺望景観の変化の程度(27 白浜西山公園)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 1.3km ・水平見込角：約 26° ・俯角：約 3° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 白浜西山公園の広場より、南東方向を眺望した景観(秋季)です。景観資源である御旅山広畠と段々畑、ほうらく島(上島)を眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 1.3km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 26° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約 3° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(30)　主要な眺望景観の変化の程度(28 麻生山(小富士山))

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 3.2km ・水平見込角：約 116° ・俯角：約 3° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 麻生山(小富士山)山頂付近の休憩スペースより、南方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源であるほうらく島(上島)を正面に眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 3.2km で、遠景域(3km 以遠)に区分されます。水平見込角は約 116° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約 3° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(31)　主要な眺望景観の変化の程度(29 川尻緑地)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.9km ・水平見込角：約 46° ・仰角：約 2° ・俯角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 川尻緑地内の小山上より、北東方向を眺望した景観(夏季)です。景観資源である市川を眺望することができ、市川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.9km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 46° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、背後の建物の一部に溶け込んでおり、仰角は約 2° と圧迫感を感じない角度に抑えられていること、俯角は約 1° と俯瞰景観の中心から外れていることから、ほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(32)　主要な眺望景観の変化の程度(30 浜の宮天満宮)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.2km ・水平見込角：約 21° ・仰角：約 7° ・スカイラインの切断:あり [予測結果] 浜の宮天満宮前のバス停付近より、南方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である浜の宮天満宮を眺望することができ、車道の上空を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.2km で、近景域(500m 以内)に区分されます。仰角は約 7° と圧迫感を感じない角度に抑えられていますが、水平見込角は約 21° と対象構造物が目立ちやすい値になっており、都市計画対象道路により主として建物や樹木により形成されているスカイラインも切断されます。 これらのことから、主要な眺望景観に変化が生じると予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(33)　主要な眺望景観の変化の程度(31 夢前川の桜並木)

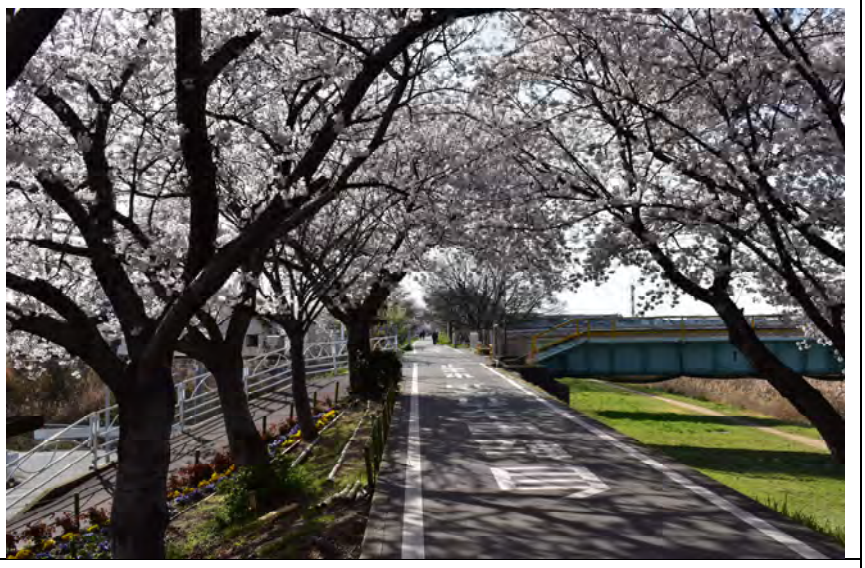
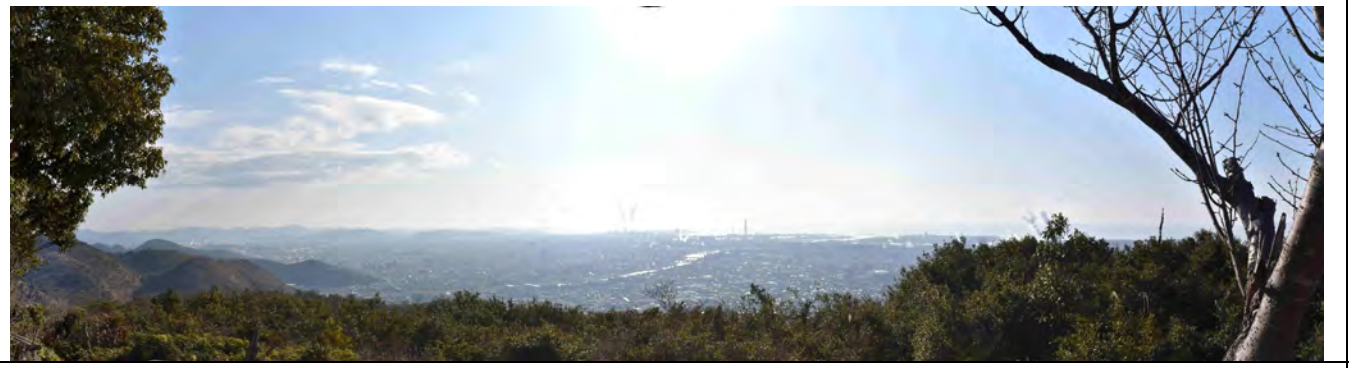
撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 0.8km ・水平見込角：約 42° ・仰角：約 1° ・スカイラインの切断:なし [予測結果] 夢前川横の自転車・歩行者道より、南方向を眺望した景観(春季)です。景観資源である夢前川の桜並木を眺望することができ、夢前川を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 0.8km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 42° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、仰角は約 1° と圧迫感を感じない角度に抑えられています。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

表 11.11-12(34)　主要な眺望景観の変化の程度(32 京見山)

撮影時期	写真	予測結果
現況		[物理的指標による解析結果] ・視距離：約 2.8km ・水平見込角：約 43° ・俯角：約 1° ・スカイラインの切断：なし [予測結果] 京見山山頂付近の休憩スペースより、南方向を眺望した景観(冬季)です。景観資源であるほうらく島(上島)を眺望することができ、遠方を通過する都市計画対象道路を視認することができます。 物理的指標による解析の結果、視距離は約 2.8km で、中景域(3km 以内)に区分されます。水平見込角は約 43° と対象構造物が目立ちやすい値になっていますが、周辺景観に溶け込んでおり、俯角は約1° と俯瞰景観の中心から外れているためほとんど目立ちません。また、スカイラインの切断は生じません。 これらのことから、主要な眺望景観の変化の程度は小さいと予測されます。
将来		
改変される位置		

3) 環境保全措置の検討

(1) 環境保全措置の検討

予測の結果、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在により、主要な眺望点のうち、「坂の山頂上」については、その一部を都市計画対象道路が切土工で通過し、主要な眺望点が改変を受けると予測されます。「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」、「いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)」、「多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港」、「加古川河口」、「加古川右岸自転車道」及び「高砂海浜公園・向島公園」の 6 箇所については、その一部を都市計画対象道路が高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。

また、景観資源のうち、「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」、「いなみ野ため池ミュージアム(潰目池)」、「多木浜洋館(あかがね御殿)・別府港」、「加古川河口」、「高砂地区景観形成地区」、「高砂海浜公園・向島公園」及び「市川」の 7 箇所については、その一部を都市計画対象道路が高架構造で通過しますが、改変は一部に限られると予測されます。

さらに、「いなみ野ため池ミュージアム(梶ヶ池)」等、13 箇所の主要な眺望景観に変化が生じると考えられます。

これらのことから、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る景観への環境影響について、事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減することを目的として、環境保全措置の検討を行いました。

検討の結果、「眺望点の移設」、「構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩の検討」及び「法面等の緑化」を採用します。検討した環境保全措置は、表 11.11-13 に示すとおりです。

表 11.11-13　環境保全措置の検討

環境保全措置	環境保全措置の効果	実施の適否	適否の理由
眺望点の移設 (代償措置)	改変を受ける眺望点を移設することで、新たな眺望景観を創造することができます。	適	新たな眺望景観の創造が見込まれることから、本措置を実施します。
構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩の検討	構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩を周辺景観に配慮して決定することで、周辺景観との調和を図ることができます。	適	周辺景観への調和が見込まれることから、本措置を実施します。
法面等の緑化	法面等の緑化を行うことで、周辺景観との調和を図ることができます。	適	周辺景観への調和が見込まれることから、本措置を実施します。

(2) 検討結果の検証

実施事例等により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断されます。

(3) 検討結果の整理

環境保全措置として採用した「眺望点の移設」、「構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩の検討」及び「法面等の緑化」の実施内容、効果等について整理した結果は、表 11.11-14 に示すとおりです。

表 11.11-14(1)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	眺望点の移設(代償措置)
	位置	改変を受ける眺望点の周辺
環境保全措置の効果		新たな眺望景観を創造することができます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		眺望点の代替位置によっては、動物・植物・生態系への影響が生じる場合があります。

注)環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.11-14(2)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩の検討
	位置	構造物(橋梁等)や道路附属物の設置位置
環境保全措置の効果		周辺景観との調和を図ることができます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		人と自然との触れ合いの活動の場への影響が低減されます。

注)環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

表 11.11-14(3)　環境保全措置の検討結果の整理

実施内容	種類	法面等の緑化
	位置	法面等の位置
環境保全措置の効果		周辺景観との調和を図ることができます。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		人と自然との触れ合いの活動の場への影響が低減されます。

注)環境保全措置の具体化の検討時期は、事業実施段階とし、最新の技術指針等を踏まえて決定します。

(4) 事後調査

予測手法は多数の実績のある方法で行っており、予測の不確実性は小さいと考えられます。また、採用した環境保全措置についても、実施事例等により、効果の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しません。

4) 評価

(1) 評価の手法

① 回避又は低減に係る評価

道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在による景観に関する影響が、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、必要に応じその他の方法により環境の保全についての配慮が適正になされているかどうかについて、見解を明らかにすることにより評価しました。

(2) 評価結果

① 回避又は低減に係る評価

都市計画対象道路は、道路の計画段階において、環境影響を回避又は低減するために、主要な眺望点及び景観資源をできる限り回避した計画としています。また、環境保全措置として表 11.11-14 に示す「眺望点の移設」、「構造物(橋梁等)及び道路附属物の形式、デザイン、色彩の検討」及び「法面等の緑化」を実施し、環境負荷の低減を図ります。

さらに、都市計画対象道路事業の実施にあたっては、以下の計画及び条例等に配慮します。なお、景観資源のうち、一部地域の改変が想定される「高砂地区景観形成地区」においては、「高砂市高砂地区景観ガイドライン」(平成 18 年 9 月、兵庫県)の「高砂市高砂地区景観形成基準」の関連する事項等を考慮し、適切な対応を行います。

- 「地域景観形成等基本計画(地域景観マスタープラン)」(平成 19 年 3 月、兵庫県)
- 「兵庫県公共施設景観指針」(平成 18 年 3 月、兵庫県景観形成室)
- 「神戸市景観計画」(平成 27 年 12 月、神戸市)
- 「姫路市景観計画」(平成 24 年 4 月、姫路市)
- 「景観の形成等に関する条例」(昭和 60 年 3 月兵庫県条例第 17 号)
- 「神戸市都市景観条例」(令和 3 年 12 月神戸市条例第 25 号)
- 「明石市都市景観条例」(平成 4 年 3 月明石市条例第 1 号)
- 「加古川市景観まちづくり条例」(平成 10 年 9 月加古川市条例第 20 号)
- 「姫路市都市景観条例」(昭和 62 年 3 月姫路市条例第 5 号)

これらのことから、道路(地表式又は掘割式、嵩上式)の存在に係る景観の影響は、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価します。